

付加価値の高い農業経営

7月開校 アグリビジネス スクール

地域農業をけん引する人材づくりを行い、加工・流通・販売・観光・交流などを組み合わせた農業経営を創出・展開していくための「アグリビジネススクール」を開校します。今回は、7月に開校予定のスクールについて、お知らせします。



ぶどう生産農家での剪定研修（11月17日 大社町中荒木）

アグリビジネスとは？

農業（アグリカルチャー）と商売（ビジネス）を組み合わせたもので、農業生産、農産物加工、貯蔵、流通販売や観光・交流などを含めた農業全般に関わるビジネスのことです。

これまで、農業といえば、生産・出荷が中心で、よい作物を作ることに重点が置かれてきました。近年は収益の上がる作物を選ぶ、付加価値の高い販売方法をとるなど、『もっか農業』に目を向けることも重要と考えられるようになってきました。

どんな学校なの？

市では、地域農業やアグリビジネスを実践・けん引する人材を育てるためには、専門の講師を招いて集中的に学べる体制が必要と考えました。

そこで、今年7月から「アグリビジネススクール」を開設することにしました。このような農業分野で人材を育成する学校の運営を市が行うのは、県内でも初めてのことで、スクールは、「基礎学習コース」と「応用研究コース」で構

成します。このうち、平成18年度は「基礎学習コース」を開講します。

校長となる二木季男（右）は、「農業・農村をとりまく厳しい環境がある一方、安全・安心な農産物の供給や農業の多面的機能の発揮、循環型環境保全農業など、農業には大きな役割が求められています。張り合いのある、高い収益の得られる農業にしていきたいための戦略をつかんでほしいと思います」と抱負を語ります。

農業に従事している方はもちろん、これから農業をやってみたいと考えている方や企業の参加も歓迎します。

校長
二木季男

農業経済学博士。
島根県中山間地域研究センター客員研究員。
平成17年7月からは島根県「立ち上がる産地育成支援事業実践アドバイザー」も務める。



基礎学習コースは次の2科

今年度開講する基礎学習コースは、2つの科からなっています。まず「就農チャレンジ科」は、栽培技術や農業経営の心構えの習得を目的とし、新規の就農者を育成します。「アグリビジネス科」では、これから求められる経営感覚と知識を学び、アグリビジネスを実践する人材づくりを目指します。詳しい講座内容や申込方法は下欄をご覧ください。

アグリビジネス スクール

アグリビジネス科

前期（7～9月）は『儲かる農業への意識転換』『経営管理の基本』などのアグリビジネス基礎講座を開校します。

その後、後期（12～1月）には、『農業法人化基礎講座』として、認定農業者や集落営農組織のリーダーなどが企業的経営センスを身に着ける講座と、アグリビジネスの起業を目指す人や企業を対象とした、実践に向けた事業構想の立案、計画の作成、発表の仕方などを学習する『アグリビジネス実践計画講座』の2つに分けることにしています。



実践していただきますアグリビジネス

～作る農業から一歩進めて～

北山ガルテン（国富町）は、小規模の兼業農家が「安定生産と安定収入を目指す」という言葉を合言葉に運営してい



北山ガルテン 代表
横野尚美さん（国富町）

る直売所です。直売をするようになって、お客さんの求めるものが直に伝わってくるようになりました。その結果、どんな商品が高く売れるかを意識した生産に変わってきました。農家は、農産物を相手にするものだと思ってきました。しかし、一緒に取り組む仲間やお客さんなどが経営を意識した農業の醍醐味だと思えますね。

就農チャレンジ科

市の有力な特産品である果樹の中から、ぶどうの栽培について、10か月かけて学びます。

(1) 基礎研修

品種やハウスの構造、栽培方法から収穫後の管理などの基本的な内容を学びます。

(2) 栽培実習

ぶどう生産農家で、剪定やジベレリン処理（種なし処理作業）などを実際に行います。



(3) 実践研修

7アールの実践ほ場で、研修生が共同で主体的に栽培を行います。

受講生募集 出雲市アグリビジネス スクール アグリビジネス科

開講予定 / 7月4日（火）
受講日 / 火曜日10時～15時（全15回）
ところ / 島根県出雲合同庁舎（大津町）
対象 / 市内でアグリビジネスの起業を目指す方など

募集人数 / 40人
受講料 / 年額3万円
申込期限 / 5月19日（金）

応募先・おたずね 農業政策課アグリビジネス スクール（TEL 21-6122）